



竹細工

竹細工

歴史と特色

古くから竹の軽く、強い特色を生かして、ザル、かごなどの日常生活品から武具、楽器、高級調度品などまで幅広く県内各地で作られ、竹工芸品は生活の中に密着してきた。特に、中世以降、茶道、華道が盛んとなり、花生、茶杓などの竹工芸品が賞賛されたことから、加賀藩においても美術工芸として振興に力をいれ、藩の細工所では数人の竹工がいたと言われている。

しかし、第2次大戦後、プラスチック製品やダンボールが大量に出回り、需要が激減した。現在、網代編を主体とした高度な紋様編で茶道具等が作られている。

歴史與特色

從古代開始就利用竹子輕而強韌的特色，製成箆籬、竹筐等日常生活用品以及盔甲、樂器、高級傢俱等竹製品，用途非常廣泛。中世紀以後，茶道和插花藝術盛行起來，插花用器皿、茶勺等竹工藝品受到好評。現在更能製造出高難度複雜的網狀編織紋路的茶具。

情報 資訊

主な生産地(主要産地)	金沢市(金澤市)
主な製品名(主要産品名)	花生(插花用器皿)
主な生産者(主要生産者)	榎本千冬(榎本千冬) 〒920-1122 金沢市湯涌荒屋町1-190(金澤市湯涌荒屋町1-190) TEL (076) 235-1114 本江和美(本江和美) 〒929-0111 能美市吉原町チ21-1(能美市吉原町チ21-1) TEL (0761)55-5009



茶道茶鍋

茶の湯釜

歴史と特色

天正9年(1581年)加賀藩主前田利家の招きで能登中居の鋳物師宮崎彦九郎義綱が金沢に移住し、武具の鋳造を行った。その子義一は、茶道の造詣深い5代藩主綱紀に仕え、茶道奉行として京都より招かれた千仙叟宗室の指導のもと鋳造技術を生かして藩御用釜師となり、幾多の名作を作った。

義一は、仙叟より寒雉菴号を受け、加賀茶の湯釜の創始者となり、以後代々襲命し、現在、13代寒雉氏が伝統の技術を守り、裏千家釜師として製作を続けている。

茶の湯釜には、風炉用と炉用があり、種類も30~50種以上もあるが、時代とともに新しい型が生まれている。原料には、和鉄(昔のナベ、釜等のつづし)を使用している。

歴史與特色

宮崎義一在千仙叟宗室の指導下，開始製作茶道用鍋，期間並受到第五代藩主的保護。之後其接班人代代繼承師名，現在的13代繼承人作為茶道裡千家的制鍋師繼續製作。茶道茶鍋有30到50種類，材料用的是將古代的道具重新冶煉而成的日本鐵。

情報 資訊

主な生産地(主要産地)	金沢市(金澤市)
主な製品名(主要産品名)	茶の湯釜(茶道茶鍋)
主な生産者(主要生産者)	宮崎寒雉(宮崎寒雉) 〒920-0901 金沢市彦三町1丁目13-30(金澤市彦三町1丁目13-30) TEL (076) 231-5013